

令和3年3月13日

南陽市農林課 担当者 様

札幌市西区八軒8条東5丁目4-8-103
北海道アオサギ研究会
代表 松長克利

赤湯地区アオサギ営巣地（コロニー）における銃駆除に関する要望

当研究会は、北海道を拠点にアオサギの生態および保全に関わる調査研究を行っている市民団体です。基本的に道内を拠点に活動していますが、人との間に起こる種々の問題については全国規模で情報収集を行い、必要に応じて関係機関への提言や要望を行っています。

さて、貴市赤湯地区のコロニーにおいて、営巣中のアオサギに対する銃駆除が行われていると聞き及んでいます。これについては同地区中学生による当該駆除を題材にした作文が東北電力主催の作文コンクールで賞をとったことから広く一般の耳目を集めるところとなりました。また、本件については、先日、貴課担当者様に電話で問い合わせ簡単な事実確認を行ったところです。

当研究会としては、コロニーからのアオサギの追い出しそのものに反対するものではありません。アオサギによる被害が、人的、経済的に許容できる範囲を著しく逸脱する場合、アオサギに立ち退きを強制するのはやむを得ない措置であると考えています。しかしながら、先日の電話でのご回答では、コロニー周辺でどの程度の被害があるのか十分に把握されているとはいえず、追い払いを正当化するための根拠が極めて薄弱であるとの印象をもちました。

さらに問題なのは、今回の被害対策が単なる追い出しに留まらず、銃による殺傷を伴う直接的な駆除である点です。これについては、動物の命を軽視した甚だしく過剰な反応であると思なざるを得ません。コロニーにいるアオサギの一部を銃で殺したところで、周囲で得られる餌の量が変わらない限り、個体数は遅かれ早かれ回復します。単にアオサギを追い払うだけなら、銃を使わずともドローンを飛ばしたり鷹匠にタカを放ってもらうなど、アオサギに直接の危害を加えず追い払う方法は他にいくらでもあります。

もうひとつの問題は、駆除の実施時期が営巣の最盛期である5月半ばに設定されていることです。子育ての真っ最中に銃を用いて親子もろとも殺傷するという行為は非道でおぞましいだけでなく、アオサギをコロニーから退去させる手法としてもっとも非効率的であると言えます。

ます。これは鳥類一般について言えることですが、アオサギは産卵後は巣に対する執着が強くなり、ヒナが孵化した後は執着の度合いはもっと強くなります。そのような状態にある親鳥を巣から追い出すのは効率の面から言っても妥当ではありません。効率良く追い払いたいのであれば、春先、アオサギがコロニーに飛来しはじめる時期に集中的に実施するのが理にかなったやり方です。

現在、我々の暮らす社会は、野生鳥獣との共存や動物倫理を意識せずには成り立たなくなっており、住民から苦情が上がってくれば機械的に駆除するという人間本位なやり方はもはや通用しません。地域的な事情等により野生鳥獣の存在がどうしても許容できない場合があるのは理解できますが、そのような場合でも、安易に鳥獣の命を奪うようなことがあってはなりませんし、殺傷を伴う駆除をしなくても済むような工夫と努力が、市民と行政により日々積み重ねられてきているのが現状です。そうした中であって、貴市で行われているアオサギの駆除は今日の社会のコンセンサスを到底得られるものではないと考えます。

については、営巣期のコロニーにおける銃を用いたアオサギ駆除の中止を強く要望します。また、被害の程度など、コロニーからの追い出しを正当化するための十分な根拠についての明確な説明（中止される場合は必要ありません）と、今回の問題に対する貴市の今後の具体的なご対応について文書でご回答いただけますようお願いいたします。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、以上の件についてご検討ご対応のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

以上